

2025
ズバリ! 的中



日本史

関西学院大学

大正から昭和初期における学術研究の
内容を問う問題がズバリ的中

入試問題

2月1日実施 全学部日程
大問〔IV〕 設問6・7

〔IV〕 次の文章A・Bを読んで設問に答えなさい。もっとも適切な答えを一つマークしなさい。

B. 大正から昭和初期にかけての日本では、第一次世界大戦期の経済発展などを背景として、学術・文化の新たな展開がみられた。人文科学の領域では、lが日本の古代史研究を大きく前進させ、また民衆の日常生活に注目したmは、民俗学という新たな学問を確立した。社会科学の領域では、nを著して反響を呼んだ河上肇が、マルクス主義経済学を紹介し、その後の社会科学に大きな影響を与えた。文学の領域では、大正期には白樺派や新思潮派が活躍したが、昭和期になると、新感覚派とプロレタリア文学が大きな影響力を持つようになった。しかしこうした新たな学術・文化の動向は、1930年代における学問・思想に対する統制の強化とナショナリズムの台頭のなかで圧迫され、次第に衰退していった。

【設問】

6. 空欄 l・m に該当する語句の組合せとして、正しいものを下記より選びなさい。

- ア. l : 西田幾多郎・m : 和辻哲郎 イ. l : 西田幾多郎・m : 柳田国男
ウ. l : 津田左右吉・m : 和辻哲郎 エ. l : 津田左右吉・m : 柳田国男

7. 空欄 n に該当する語句として正しいものを下記より選びなさい。

- ア. 『貧乏物語』 イ. 『雨月物語』
ウ. 『日本資本主義発達史講座』 エ. 『太陽のない街』

河合塾

冬期講習
関関同立大日本史 第5講 大問3 設問12

〔3〕 近現代の文化

次のA～Dの文章を読んで設問に答えなさい。もっとも適当な選択肢を一つ選びなさい。

C. i大正デモクラシーとよばれる新しい民主主義の時代を迎えると、市民生活も様変わりした。jマス・メディアの発達や工業化にともなうk都市化などによって、労働者やサラリーマンなどの一般労働者を担い手とする大衆文化が誕生した。l学問の分野でも新しい傾向が生まれ、教育熱の高まりや資本主義の発達による人材養成のためにm教育機関の拡充がはかられた。

【設問】

12. 下線部 l の説明として、誤っているものを下記より選びなさい。

- ア. 西田幾多郎は、『善の研究』で西洋と東洋の哲学を融合した独自の哲学を打ち立てた。
イ. 野呂栄太郎は、マルクス主義経済学の立場から『貧乏物語』を著したために逮捕された。
ウ. 津田左右吉は、『古事記』や『日本書紀』に歴史的事実ではない記述があることを論証した。
エ. 柳田国男は、民間伝承の調査・研究を通じて民俗学の基礎をきずいた。